

# CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神戸学院大学有瀬キャンパス1号館建設工事	階数	地上3F・地下0F
建設地	神戸市西区伊川谷町有瀬字山東518	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第2種中	平均居住人員	1,279 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年9月2日
敷地面積	141,781 m <sup>2</sup>	作成者	市川 雅也
建築面積	2,751 m <sup>2</sup>	確認日	2024年9月2日
延床面積	6,879 m <sup>2</sup>	確認者	深堀 佳寿美



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 2.3</b> ★★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能: 5 Q1 室内環境: 3 Q3 室外環境(敷地内): 3 LR1 エネルギー: 4 LR2 資源・マテリアル: 4 LR3 敷地外環境: 3</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Qのスコア = 3.4</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.6</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 3.6</b></p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 3.0</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LRのスコア = 3.9</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 4.2</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 3.9</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.5</b></p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
<p><b>バリアフリー計画</b></p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>4.0</p>	<p><b>建築物の耐震性等</b></p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>3.0</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>3.0</p>	<p><b>まちなみ・景観への配慮</b></p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>3.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>建築物移動等円滑化基準をすべて満足している。</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>0</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**神戸学院大学有瀬キャンパス1号館建設工事**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.40</b>			<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.3</b>	0.15	-	-	<b>4.3</b>
1.1 室内騒音レベル		室内騒音レベルの目標値:40dB(A)				<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音						<b>4.8</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		サッシ遮音等級はT-2以上				5.0	0.30	-	-	
2 界壁遮音性能		Dr=45以上				5.0	0.30	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr=50より良い				5.0	0.20	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr=55以下				4.0	0.20	-	-	
1.3 吸音		床と天井に全面的に吸音材を採用				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.7</b>	0.35	-	-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御						<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 室温		室温設定は夏期26℃・冬期22℃				4.0	0.60	-	-	
2 外皮性能		外壁は断熱材を施し、開口部はLow-eガラスを採用				4.0	0.40	-	-	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>4.4</b>	0.25	-	-	<b>4.4</b>
3.1 昼光利用						<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率:2.5%以上				5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備		ハイサイドライトの採用				4.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		ブラインド及び庇によりグレアを制御				4.0	1.00	-	-	
3.3 照度		平均照度は500Lx以上				<b>4.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		細かな照明制御が可能で、端末で調整が可能				<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.9</b>	0.25	-	-	<b>3.9</b>
4.1 発生源対策						<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		全面的にF☆☆☆☆の建材を採用				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能						1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		外気取入れ口は排気口と異なる方位、かつ6m以上離隔				5.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.1</b>	0.40	-	-	<b>4.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準項目を満足				4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:3.2m以上				5.0	0.50	-	-	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画		コンセプトに基づく内装計画の実施				5.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理						<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		廃棄物スペースの確保、清掃用コンセントの設置等				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット等の耐用年数20年以上の内装材を採用				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房用ダクトにガルバリウム鋼板ダクトを採用				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にB以上を採用し、Eは不採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		無停電電源設備の採用等				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めず通信配線の更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.58	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		自然換気システムを採用	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.65	<b>4.5</b>	0.50	-	-	<b>4.5</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		衛生器具の過半に節水器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.3</b>	0.60	-	-	<b>4.3</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎・基礎梁に高炉セメントもしくはフライアッシュセメント	5.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		床(ビニル床シート)、天井(岩綿吸音板)、床(OAフロア)	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と内装材は容易に分離可能で、かつOAフロアを採用	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP<50の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		CO2排出率:76%	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼設備の使用なし	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境へ配慮した適切な照明計画の実施	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	